

【今日の説教から】

ヨセフ物語を読み進めております。ついにヨセフと兄たちが再会する場面です。

「ヨセフの兄弟たちはきて、地にひれ伏し、彼を拝した」ヨセフの見た夢は20年以上の時を経て、果たしてその通りになりました。

私たちは神様のなさることの遠大さにただ驚くばかりです。伝道の書の3章です。

「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。…神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終りまで見きわめることはできない。」

ヨセフにとっては長い長い時の末に知らされた神様の御業の完結でした。同様に、神様はヨセフの兄たちの罪をそのままにはしておかれませんでした。

「彼らは互に言った、『確かにわれわれは弟の事で罪がある。彼がしきりに願った時、その心の苦しみを見ながら、われわれは聞き入れなかつた。それでこの苦しみに会うのだ』」

私たちは全ての私たちの罪に対しての帰結を自分で刈り取らなければならないという恐れを抱きます。どうやって私たちは全ての罪の始末をすることが出来るでしょうか。ヨセフは王のように兄たちの前に君臨し、兄たちはひれ伏しています。報いを与える権威がヨセフにはありました。絶対的な権力者であられる天の父なる神様は私たちにどう報いられるのでしょうか。

皆様おはようございます。

昨日からずっと雨が降り続いていますね。

三寒四温のころ、気温差がありますので皆様ぜひご自愛ください。

さてヨセフ物語もだいぶお話が進んでまいりました。

今日はいよいよヨセフと兄弟たちの対面の場面です。

42:1 ヤコブはエジプトに穀物があると知って、むすこたちに言った、「あなたがたはなぜ顔を見合わせているのですか」。

42:2 また言った、「エジプトに穀物があるということだが、あなたがたはそこへ下って行って、そこから、われわれのため穀物を買ってきなさい。そうすれば、われわれは生きながらえて、死を免れるであろう」。

42:3 そこでヨセフの十人の兄弟は穀物を買うためにエジプトへ下った。

42:4 しかし、ヤコブはヨセフの弟ベニヤミンを兄弟たちと一緒にやらなかった。彼が災に会うのを恐れたからである。

42:5 こうしてイスラエルの子らは穀物を買おうと人々に交じってやってきた。カナンの地にききんがあったからである。

42:6 ときにヨセフは国につかさであって、國のすべての民に穀物を賣ることをしてゐた。ヨセフの兄弟たちはきて、地にひれ伏し、彼を拝した。

ヨセフがカナンのお父さんのもとにいたのが17歳、エジプトの王の前に出たのが30歳、それから豊作が7年の後の凶作ですから、かれこれ足しましたら、あの兄たちの凶行から20年以上がたっている計算となります。

「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。…神のなされることは皆その時にかなつて美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終りまで見きわめることはできない。」

伝道の書に書いてある通りですね。ここでまさか兄弟たちはヨセフに、このような形で会うとはどう想像できたでしょうか。彼らは穴の中にヨセフを陥れ、他の人がさらってエジプトに彼は売られたわけですから、兄たちの知る由もなかつたことは分かります。しかしこうして20年の時を超えて、ヨセフが見た夢は現実のこととなりました。

私たちは神様の遠大なお働きをまぎまぎと知らされます。私たちにとっては20年も先のことを知ることも動かすことも、全く不可能です。1秒先のことも私たちには分かりません。しかし神様は見通されるお方であり、神様は大能の御業によって全てのことを見通され、すべてのことを動かしておられます。このようなお方の御手のお導きの中に入れられているという事は、何という幸いなことなのでしょうか。

地にひれ伏し、彼を拝した。直訳すれば彼にひれ伏し、両方の鼻の穴を地面につけたとあります。完全なる絶対服従の姿がここにあります。

エジプトの王パロに次ぐ第二の地位を得て、ヨセフには絶対的な権威と力がありました。兄弟たちは彼とは分かりませんでしたが、ヨセフにとっては兄たちは忘れようもありませんでした。これは報復のチャンスとなつたのでしょうか。

42:7 ヨセフは兄弟たちを見て、それと知ったが、彼らに向かっては知らぬ者のようにし、荒々しく語った。すなわち彼らに言った、「あなたがたはどこからきたのか」。彼らは答えた、「食糧を買うためにカナンの地からきました」。

42:8 ヨセフは、兄弟たちであるのを知っていたが、彼らはヨセフとは知らなかった。

42:9 ヨセフはかつて彼らについて見た夢を思い出して、彼らに言った、「あなたがたは回し者で、この國のすきをうかがうためにきたのです」。

この難癖と言いますか、つらく当たつてゐることは、ヨセフの心を怒りに任せた行動なので

しょうか。いえ、ヨセフには確かめたいことがあったのです。

42:10 彼らはヨセフに答えた、「いいえ、わが主よ、しもべらはただ食糧を買うためにきたのです。

42:11 われわれは皆、ひとりの人の子で、真実な者です。しもべらは回し者ではありません」。

42:12 ヨセフは彼らに言った、「いや、あなたがたはこの国のすきをうかがうためにきたのです」。

42:13 彼らは言った、「しもべらは十二人兄弟で、カナンの地にいるひとりの人の子です。末の弟は今、父と一緒にいますが、他のひとりはいなくなりました」。

42:14 ヨセフは彼らに言った、「わたしが言ったとおり、あなたがたは回し者です。

42:15 あなたがたをこうしてためしてみよう。パロのいのちにかけて誓います。末の弟がここにこなければ、あなたがたはここを出ることはできません。

42:16 あなたがたのひとりをやって弟を連れてこさせなさい。それまであなたがたをつないでおいて、あなたがたに誠実があるかどうか、あなたがたの言葉をためしてみよう。パロのいのちにかけて誓います。あなたがたは確かに回し者です」。

42:17 ヨセフは彼らをみな一緒に三日の間、監禁所に入れた。

同じ母のもと生まれた彼の弟は無事であるか。自分と同じようにやっかみを得ていじめられてはいないか。懐かしい、血を分けた弟に会いたい。そして無事を確かめたい。それが彼の心だったのではないか。そして兄たちの反省も促したいと彼は思っていたに違いありません。彼らはあの後、自分を見殺しにして、時には罪の呵責を覚えていたのだろうか。申し訳のないことをしたと反省をしてくれていたのだろうか。そんなことをヨセフは知りたいと思ったのではないでしようか。

42:18 三日目にヨセフは彼らに言った、「こうすればあなたがたは助かるでしょう。わたしは神を恐れます。

42:19 もしあなたがたが真実な者なら、兄弟のひとりをあなたがたのいる監禁所に残し、あなたがたは穀物を携えて行って、家族の飢えを救いなさい。

42:20 そして末の弟をわたしのもとに連れてきなさい。そうすればあなたがたの言葉のほんとうであることがわかって、死を免れるでしょう」。彼らはそのようにした。

42:21 彼らは互に言った、「確かにわれわれは弟の事で罪がある。彼がしきりに願った時、その心の苦しみを見ながら、われわれは聞き入れなかつた。それでこの苦しみに会うのだ」。

42:22 ルベンが彼らに答えて言った、「わたしはあなたがたに、この子供に罪を犯すなど言ったではないか。それにもかかわらず、あなたがたは聞き入れなかつた。それで彼の血の報いを受けるのです」。

42:23 彼らはヨセフが聞きわけているのを知らなかった。相互の間に通訳者がいたからである。

42:24 ヨセフは彼らを離れて行って泣き、また帰ってきて彼らと語り、そのひとりシメオンを捕えて、彼らの目の前で縛った。

「確かにわれわれは弟の事で罪がある。彼がしきりに願った時、その心の苦しみを見ながら、われわれは聞き入れなかつた。それでこの苦しみに会うのだ」。

42:22 ルベンが彼らに答えて言った、「わたしはあなたがたに、この子供に罪を犯すなと言つたではないか。それにもかかわらず、あなたがたは聞き入れなかつた。それで彼の血の報いを受けるのです」。

彼らは口々に、このようなことを語り合っていました。

20年以上も経つて、もう遙か昔のことなのに、しかし人は罪を犯すことにより、その結果をいつか必ず刈り取ることになるという厳しい現実がここには示されています。

ローマ 6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

ガラテヤ 6:7 まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。

6:8 すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、靈にまく者は、靈から永遠のいのちを刈り取るであろう。

6:9 わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。

6:10 だから、機会のあるごとに、だれに対しても、とくに信仰の仲間に対して、善を行おうではないか。

ヨセフは今、絶対的な権力者として兄弟たちの前にいます。彼の命令一つで、兄弟たちを二度と牢から出られないようにすることも出来たはずです。人殺しの罪を働いた兄たちは、そうされても文句の言えない人たちでした。さてヨセフは彼らにどうするのでしょうか。

42:24 ヨセフは彼らを離れて行って泣き、また帰ってきて彼らと語り、そのひとりシメオンを捕えて、彼らの目の前で縛った。

彼は涙を流しました。見ようによれば長兄が辞めておけばよかったですのに、あんなに行ったのにと兄弟たちを責め、兄弟たちはああ自分のせいでこんなことになっているのかなあと、しょぼんとしているだけで、激しく悔い改めて公開の涙を流しているように思われません。そのように思われないのですが、ヨセフはそれを見て涙を流しました。それは怒りの涙、悔し涙だったのでしょうか。いえ、そうではないと思います。

同様に私たちも、数々の罪や思い違いを犯し、神様を怒らせるこをしてきたことだと思います。そして審判の時はやがて来たり、わたくしたちは、ああ、のこと、このことは指摘ならなかつたのだなあとしみじみと、その時になつてやつと、何十年もしてから後悔しても先に立たずという事があるのかもしれません。しかしそのような時、絶対的な権力者であられる神様はどのようなお心持で私たちをご覧になっておられるのかという事がこのヨセフ物語に透けているように思うのです。

42:24 ヨセフは彼らを離れて行って泣き、また帰ってきて彼らと語り、そのひとりシメオンを捕えて、彼らの目の前で縛った。

42:25 そしてヨセフは人々に命じて、彼らの袋に穀物を満たし、めいめいの銀を袋に返し、道中の食料を与えさせた。ヨセフはこのように彼らにした。

42:26 彼らは穀物をろばに負わせてそこを去った。

42:27 そのひとりが宿で、ろばに飼葉をやるため袋をあけて見ると、袋の口に自分の銀があった。

42:28 彼は兄弟たちに言った、「わたしの銀は返してある。しかも見よ、それは袋の中にある」。そこで彼らは非常に驚き、互に震えながら言った、「神がわれわれにされたこのことは何事だろう」。

42:29 こうして彼らはカナンの地にいる父ヤコブのもとに帰り、その身に起つた事をことごとく告げて言った、

42:30 「あの国の君は、われわれに荒々しく語り、国をうかがう回し者だと言いました。

42:31 われわれは彼に答えました、『われわれは真実な者であつて回し者ではない。

42:32 われわれは十二人兄弟で、同じ父の子である。ひとりはいなくなり、末の弟は今父と共にカナンの地にいる』。

42:33 その国の君であるその人はわれわれに言いました、『わたしはこうしてあなたがたの真実な者であるのを知ろう。あなたがたは兄弟のひとりをわたしのもとに残し、穀物を携えて行って、家族の飢えを救いなさい。

42:34 そして末の弟をわたしのもとに連れてきなさい。そうすればあなたがたが回し者ではなく、真実な者であるのを知って、あなたがたの兄弟を返し、この国であなたがたに取引させましょう』。

42:35 彼らが袋のものを出して見ると、めいめいの金包みが袋の中にあったので、彼らも父も金包みを見て恐れた。

42:36 父ヤコブは彼らに言った、「あなたがたはわたしに子を失わせた。ヨセフはいなくなり、シメオンもいなくなった。今度はベニヤミンをも取り去る。これらはみなわたしの身にふりかかって来るのだ」。

42:37 ルベンは父に言った、「もしわたしが彼をあなたのものとに連れて帰らなかつたら、わたしのふたりの子を殺してください。ただ彼をわたしの手にまかせてください。わたしはきっと、あなたのものとに彼を連れて帰ります」。

42:38 ヤコブは言った、「わたしの子はあなたがたと共に下って行つてはならない。彼の兄は死に、ただひとり彼が残っているのだから。もしあなたがたの行く道で彼が災に会えば、あなたがたは、しらがのわたしを悲しんで陰府に下らせるであろう」。

ヨセフは穀物の代価を受け取らず、彼の家族を愛する気持ちはいささかも変わっていないことが伺えます。それはヨセフがお父さんに与えたという事だけではないのだと思います。たくさんの穀物を、代価も受け取らずに差し出す。それは悪辣な兄たちへも向けられた彼の憐れみであったのではないでしょうか。

ここに神様の、イエス様による贖いを感じるのです。無代価で、イエス様の身代わりの死によって、一人一人が罪赦され、罪の重荷から解放され、永遠の生きるようにと願う、それがこの世界の絶対的権力者である神様、王の王、主の主である神様のお心なのです。

ルベンの、自分の子にも代えてベニヤミンを連れ帰りますという言葉も感動的です。何時でも私たちの間で価値あるものは、自分の身に変えてもあなたに幸せになってもらいたいという愛なのです。その愛のオリジナルは神様にあります。私たちもまた、赦され、与えられ、そうして私たち自身も赦し、与える者でありたいと願います。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

「罪の支払う報酬は死である」と聖書は語りますが、罪の忌まわしさを思います。ヨセフの兄弟たちがヨセフに行った罪が明るみに示され、兄弟たちがひれ伏すという20年前の夢は神様には誤りなくこの日に実現しました。怒りに燃えているであろう権威者の前に兄たちの命は風前の灯火のように見えました。それは私たちにおいても神様の前に同

様に思います。しかし主は私たちを贖ってくださいました。どうぞあら
ゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの
家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエ
ス様の御名によって祈ります。アーメン